

質問	山口にあった「木霊」「白梅」という歌誌について知りたい。
回答	歌誌「木霊」は田村盛一が創刊。大正2年(1927年)7月、毛筆の回覧誌『こだま』を作成。大正7年1月26日、新聞の附録として「詩歌考」を発行。7月、「木霊」という題名で、第6号から独立の雑誌として発行。大正9年6月、第29号で休刊。 吉田熙生(よしだひろお、「熙」の漢字は文献を参照)の『評伝中原中也』に、「山口には、ほかに当時山口図書館に勤務する小鳥田村盛一の主宰する「木霊」という歌誌もあったが、これは中原とは関係のないグループである」(P.44)と記されている。 歌誌「白梅」(シラムメ)は県下で初めての歌誌とされる。大正11年7月、毛利碧堂が創刊(31号まで)。大田哀歌鳥が編集・発行。大正14年の末、第4巻第3号をもって終刊。「白梅」で碧堂の影響を受け活躍した人々として、竹内八郎、大田哀花鳥、江原青鳥、小川五郎ら。生田蝶介、若山牧水、吉井勇、窪田空穂らも参加し選者をつとめた。『シラムメ』と名を書き改め、大正14年第4巻第3号で終刊。 (『中原中也記念館官報 第7号』の「山口の歌人友廣保一」によれば、「白梅」の終刊は大正14年3月推定、とのこと。)
回答のプロセス	中原中也の短歌に関連して調べられていたので、中原中也関係の資料も参考にした。
資料	『山口県近代文学年表』(Y910ヤマ) 『山口市史 各説篇』(Y217.1ヤマ) 『中原中也記念館館報 第7号』 『評伝中原中也』(Y911ナチ)
備考	「中原中也記念館館報」はインターネットからPDFを閲覧できる。